

## Yale 大学滞在記

Department of Pathology  
Yale University School of Medicine

越智 章展  
(イエール大学医学部病理学講座)

2015年6月から2018年3月まで、アメリカ合衆国の Yale 大学に留学いたしました。Yale 大学は、東海岸の Connecticut 州、New Haven にあります。New Haven は New York と Boston の中間地点の海沿いに位置する街で、多くの歴史的な建物が立ち並ぶ非常に美しいところです。また、多くの留学生が住んでおり非常に国際色豊かな場所でもあります。Yale 大学は1701年に創立された歴史ある大学で、今までに5人の大統領や49名のノーベル賞受賞者を含む様々な著名人を輩出しています。私は Medical School 内の病理学教室に在籍し、その中でも腎臓病理に特化した Dr. Gilbert Moeckel 氏の研究室にて研究を行いました。私に与えられた研究のテーマは、“急性尿細管壊死後の尿細管再生に関与する新規因子の同定”でした。研究室はボスと私ともう一名の研究者の計3名という小さな規模でしたが、他の研究室との交流も盛んであり、地元の高校生が研究に参加するなど賑やかな日々を過ごすことができました。また、病理学・腎臓内科のカンファレンスや、他の研究室との合同論文抄読会、様々な分野の研究会などが毎週定期的に行われており、知識のアップデートを行うには最適の場所でした。

さてそのような環境で約3年間留学生活を送りましたが、その間に感じたこと・発見したことを箇条書きで報告させていただきたいと思います。

- ①英語力はあるに越したことはないが心配しすぎる必要はない。一番大事なのは英語が通じなかったらどうしようという戸惑いを捨てることである。
- ② VISA 関連の書類など事務仕事が一般的に遅く、適度に催促のメールをしなければならない。口約束は信頼しないほうが良い。他の公共の書類の手続きも同様。
- ③アメリカの研究試薬は日本と比べて非常に安く（特に抗体が安い）、納期も早い。また Yale 大学では大学内の売店で実験の消耗品（一般的な培養培地や培養皿、試薬など）を直接購入することができた。
- ④ Yale 大学には大学内にグラント支援の専門部門があり、応募資格のあるグラントを探してくれた。またグラント応募の際に書類の推敲、英語のチェックを行ってくれた。私のような英語が母国語でない人間にとってうれしいサービスであった。
- ⑤ Yale 大学では共同研究が非常に盛んであり、研究室の横の繋がりが日本より強い。

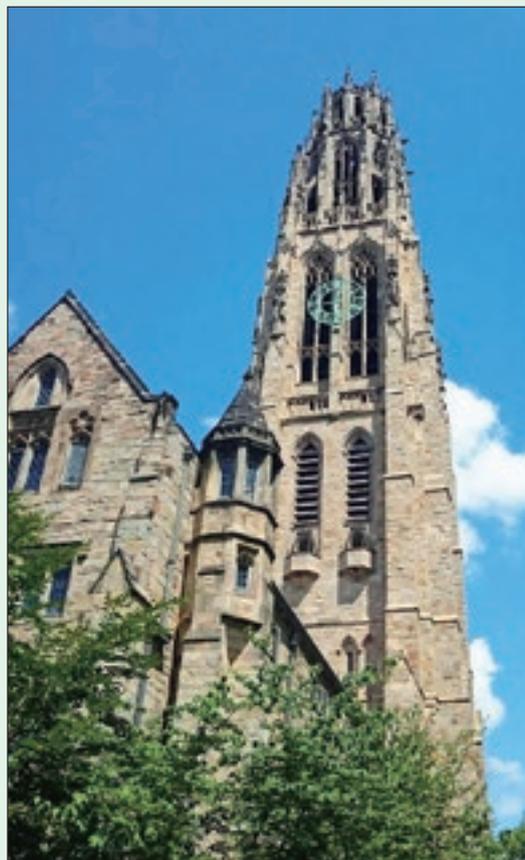
⑥信じられないような古い実験器具が現役で活躍していた。

⑦時間の on-off がしっかりしており、夕方6時には多くのラボの電気が消えていた。土日祝日に研究室に来る人はほとんどいなかった。連休前日の昼間からどんどん人がいなくなっていく。しかし、アメリカは日本と比べて祝日が少ない。

⑧同じ部門内でも研究室間の競争は激しく、獲得研究費が少ない研究室は容赦なく切り捨てられる。研究留学するのであれば資金が潤沢にある研究室を選ぶべし。

留學生活は楽しいことばかりではありませんでしたが、留學中に得られた経験は私にとって他の何物にも代えられない貴重な財産となりました。このような貴重な留學生活を支援していただいた上原記念生命科学財団の皆様にご心より御礼申し上げます。

(30. 4. 30受領)



Yale 大学のシンボルの時計塔  
(Harkness Tower)